

## ストリートダンスの脱スティグマ化

1230542 森大樹

指導教員 朝岡孝平

### 研究背景

ストリートダンスは路上で練習を行うアンダーグラウンド性や起源に対して、否定的な評価を抱かれる場合も多い。しかし、近年日本では、プロダンスリーグの発足や小中学校でのダンスの必修化、パリ五輪のブレイクダンスの追加種目決定のように、ストリートダンスに対するネガティブなイメージは緩和されてきているように思われる。

### 研究目的

本研究では上記の研究背景について、スティグマという理論的枠組みを用いてアプローチする。スティグマとは、他の人に望ましくないとみなされてしまう属性のことである。本研究は、日本で否定的な評価を抱かれることが多いとされているストリートダンスについてのイメージが、近年の日本でのプロダンスリーグの発足や小中学校でのダンスの必修化、パリ五輪のブレイクダンスの追加種目決定のように変化してきているプロセスについて明らかにすることを目的とした。

### 研究方法

日本へストリートダンスの文化が広まったとされている 1980 年代以降のストリートダンスが取り上げられているテレビ番組の映像を分析し、その中でのストリートダンスの描かれ方や表現の変化を調べる。また、全国紙(朝日新聞・日本経済新聞・読売新聞)のストリートダンスに関する記事を読読して、同様にストリートダンスの描かれ方や表現の変化を調べる。その後、テレビと新聞それぞれのメディアでのストリートダンスの描かれ方や表現の変化を比較する。

### 分析結果

テレビによって社会的なストリートダンスに対してのイメージに肯定的な影響が与えられ、それによって肯定的なイメージに変化した社会を新聞が反映することを繰り返し行った。そのことによって幅広い層の間でストリートダンスの認知が広まり、社会的に受け入れられるようになった。

### 考察・結論

ストリートダンスはもともと否定的な評価を抱かれており、ストリートダンサーは「スティグマ管理」を行っていた。しかし、テレビ番組がストリートダンスの認知を広げ、肯定的な部分を伝える表現に変化し、それによってイメージ変化している社会を新聞記事が描いたことによって、ストリートダンスが社会的に受け入れられるようになった。そのため、ストリートダンスは徐々に「スティグマを管理」を行わなくてもよいものへと変化し、近年ストリートダンスは脱スティグマ化してきているというプロセスである。